

〔曲名〕 Topsy 1 a Csardas

トプシー 第一チャルダス

〔曲種〕

〔作曲者〕 Vincenzo Billi op.357

ヴィンセンツォ・ビルリ作曲

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

” Topsy” と云うのはアメリカの女流小説家Stowe (1811～1896)の唯一つ著名な作（アンクル・トムの小屋）に登場する黒人奴隷の少女の名ということであるが、

作曲者ビルリが何故に曲名としたかに就いては未だ判明していない。

V.Billi（1869～1938）の作品は最近、石村隆行君が彼地で調査しだけでも600余曲ありオリジナルのマンドリン曲も少なくない。

本邦ではフィレンツェのマウリ社から出版された” シレナの唄” （Il Canto della Sirene)や” 愛らしきセレナータ” （Petite Serenade）などが以前に愛奏されたが、

最近殆ど登場していない。

一つの作品に魅せられると同じ作者のものに何かあるだろうかと探索したくなるのは人情ではないだろうか。

筆者はBilliにも可成り傾倒して、自分でも以外に多く編曲しているので、この際書き留めておきたい。

” 夜の鐘” （鐘の音を合成した初期の代表作と云われる） ” 月夜” ” 騎兵の巡視” ” 燕のセレナータ” ” 凱旋行進曲” ” トリポリのパトロール” ” 笛の調べ”

” エチオピア小景組曲” （彷徨う小虎、ターナ湖にて、オアシス、隊商）このうち半数は演奏も起版もされていない。

本題を離れて益々止めどがなくなるが” Topsy” を了解しない儘（まま）で演奏することを本意としない方は” 第一チャルダス” で構わないと思う。

作者は” Topsy” の直後 ” Cintia” と題した” 第二チャルダス” (Op.359)も作曲している。

原曲がヴァイオリンとピアノの形になっており、第一マンドリンは殆どその儘で運指もそれに従ったが、それは参考として見て頂けばよい。

チャルダスは元来ハンガリーの民族舞曲で、ゆるやかな叙情とシンコペートの急速な主部を対照させたところに特徴があり、

マンドリン曲にも誰も知るMontiのもの、Berrutiの”ハンガリアの黄昏”、Maciocchiの”ミレーナ”、Cerraiのものなどたくさんある。

本曲は運指の様子から想像して、作者は自由奔放な演奏を期待しているようである。

友人のGuido Neri中尉に贈られている。1921出版。

1993年 2月 発行

マンドリン合奏曲集 3 集（JMU版 パート譜付）より